

アルジェリア政治・経済月例報告  
(2015年11月)

平成27年12月  
在アルジェリア日本国大使館

1. 内政

● 第61回革命記念日に際した大統領メッセージ

ブーテフリカ大統領は、11月1日に第61回革命記念日を迎えるに際して国民宛のメッセージを発出し、憲法改正について、改正案がまもなく公表されると言及した。また、同改正案では、市民の権利や自由の尊重を推進し、司法の独立性の向上等が盛り込まれ、また、野党の役割の強化、透明性を確保・保証するための独立した選挙監視組織が新たに設けられることが明らかにされた。

● 19名の著名人による大統領宛書簡

6日、ハヌーン労働党首、元大臣、革命戦士、人権活動家等の19名の愛国的著名人が、ブーテフリカ大統領へ書簡を発出し、外国からの要人とは面会する一方で、アルジェリア国民には会っていない点などにも言及しつつ、同大統領の面会を求めた。これに対して、サイダニ国民解放戦線（FLN）党首、ウーヤヒヤ民主国民連合（RND）党首、セラル首相など政権中枢部からこれを非難する発言が続出。ブーテフリカ大統領が11月中にこの要請に応えたとの報道は出ていない。

右はメディエン情報安全庁（DRS）長官の解任等、最近の重要な内政上の動きに関して、脳梗塞を患っているブーテフリカ大統領が実際には何も関知していないところで決定されているのではないかとの疑念を抱く向きがあることを示すものとして興味深い出来事であった。

● 大統領の国外移送の噂

11日付当地一部メディアは、ブーテフリカ大統領が治療のため国外に移送されたと報じた。右報道によると、ブーテフリカ大統領は国外におり、同大統領はブファリック軍用空港から医療用航空機に搭乗した。ただし、緊急搬送なのか、健康診断なのかは不明。また、同大統領は仏ではなく、スイスを経由し、他の欧州諸国に行った模様であり、秘匿性を考慮してスイス経由が選択されたのではないかと見られるとしている。なお、同大統領は、2014年11月13日、健康診断のため仏グルノーブルの診療所に48時間滞在している。

## ● ハサーン元DRS対テロ治安局長の裁判判決

26日、オランの軍事裁判所で、ハサーン元DRS対テロ局長の裁判が行われ、命令違反及び文書破棄の疑いで懲役5年の実刑判決が下された。判決後、弁護側は、被告の年齢・健康状態やこれまでの実績が考慮されておらず、上告すると述べた由。

## 2. 外交

### ● リビア関連の動き

1日、アルジェにて、リビア情勢を検討するために、メサヘル・マグレブ・AU・アラブ連盟担当相、シュクリ・エジプト外相、ジェンティローニ伊外相が会合を開催し、国連による政治合意を支持する旨表明した。また、23日、メサヘル大臣は、来訪したファーイズ・シラージュ・リビア国民政府首相候補と会談した。

12月1日には、アルジェにて第7回リビア周辺国外務大臣級会合が開催され、メサヘル大臣を議長とし、シュクリ・エジプト外相、マハマト・チャド外務・アフリカ統合相、ブラマ・ニジェール外務・協力・アフリカ統合・在外ニジェール人担当相、ダーイリー・リビア外相、アブドゥーリ・チュニジア外務大臣付国務長官、イズメール・スーダン外相の他、国連のコブラー新リビア担当特使及びAU、EU、アラブ連盟の代表者が参加、国連による政治解決への支持と、国民政府樹立後の全面的な支援を表明する声明を発表した。

### ● 対英関係

3日、ラマムラ外相は、ハモンド外相の招きにより英国を訪問した。外務省の発表によれば、今回の訪問はハモンド外相による2月のアルジェ来訪を受けたもの。ハモンド外相との会談では、リビア、マリ、シリア情勢、及び欧州への難民問題について協議した。

また、24日、メサヘル・マグレブ・AU・アラブ連盟担当相は、第5回アルジェリア・英戦略パートナーシップ治安会合に参加するためロンドンに出発、マーク・グラント英首相国家安全保障担当顧問を長とする代表团と協議を行った。

## 3. 治安

### ● DRSによるパリ連続テロ事件に関する情報提供

18日付当地紙によれば、パリで発生した同時多発テロ事件に関し、当地情報安全庁（DRS）が本年10月、仏対外安全総局（DGSE）に対して、「パリ地域の人だかりがある中心地で、複数のテロが起こる可能性が高い」と文書

で警告していた。上記DRS情報文書は、バタ克蘭で自爆したオマール・イスマイル・モステファイの不審な行動を指摘していた。同人はアルジェリアの家族を訪問する毎にDRSに通報されていた。また、同情報文書は、シリアのISへ援軍を送り込むべく奔走していたベルギーの組織網に関し、情報交換をDGSEに求めていた。さらに、DRSはフランス出身のテロ関係者リストも作成しており、リストに掲載された人物には、郊外地域出身の若者やイスラムに改宗した仏人が含まれていた由。

なお、13日のパリ連続テロ事件を受けて、アルジェリア当局は、大使館、空港、駅等の警備強化を行い、この後、濃紺の制服を着用したBRI（警察庁特別捜査部隊）要員がこれら関連施設の警備に当たっている。

#### ● バマコのテロ襲撃事件

20日、マリの首都バマコ市内のラディソン・ブルー・ホテルをテロリストが襲撃し、立てこもり、最終的にテロリスト2名を含む20名以上が死亡する事件が発生。同日、「イスラム・マグレブ諸国のアル・カーイダ（AQIM）」及びムフタール・ベルムフタール（MBM）を首領とする「ムラービトゥーン」が犯行声明を発売、更に22日、「ムラービトゥーン」は2名の実行犯を特定すると共に、犯行動機を十字軍の迫害行為に基づくものとした。

一方、同事件後、ラマムラ外相は、ラディソンホテルにいた7名のアルジェリア公式代表団（内6名が外交官）が国連軍により無事解放されたことを確認した。また、21日、アルジェリアはリビアとマリの国境を閉鎖した模様。

#### ● MBM関連テロ情報

30日付当地紙は、「ムフタール・ベルムフタール（MBM）は生存、南部の空港へのテロ攻撃を計画」と題し、アルジェリア治安当局が、MBMを首領とするムラービトゥーンによる南部の空港を標的としたテロ計画を察知し、南部空港、国境地点、その他石油関連施設や軍・治安施設の警備強化の司令を発売したと報じた。同紙によると、この計画は、パリ連続テロ事件と、MBMの生存が証明されたマリ首都のバマコのホテルへの攻撃との一環をなすものである。

## 4. 経済

#### ● ヘブリ・エネルギー大臣による財政状況報告

3日、ヘブリ・エネルギー大臣は、国民議会（下院）の予算委員会において、2015年1月—9月の財政状況報告を行い、2015年1月—9月の炭化水素収入が対前年同期比45%減少（260億ドル減）したと発表した。また、エネルギーの国内消費が年々高まりつつある状況（9月は4,300万石油換

算トン)において、同大臣は、現在国際市場及び国内需要に応えられるような野心的なプログラムを策定しており、特に未開発鉱床の探査・開発を強化することで炭化水素収入を増加させる計画があると発言した。また同大臣は、ガソリン税の増税等の措置を盛り込むことで、国民に対してエネルギー利用の合理化を促していく旨発言した。

#### ● 農業分野の合併企業設立

10日、アルジェリア民間企業のLACHEB社とアメリカのA I A Gは、農業分野の合併企業設立に合意した。同企業はアルジェリアとアメリカによる初の合併企業で、51/49%の外資規制が適用され、A I A Gが1億ドル出資する。企業名はエル・フィルマで、主にジャガイモ苗の栽培及び乳製品の生産を行う。

#### ● アルジェリア・スイス経済会議の開催

10日、アルジェのヒルトンホテルにて、駐アルジェリア・スイス大使館と経営者フォーラム(FCE)主催の経済会議が開催された。同会議には、当地滞在中のイネイヒェン・フライシュ・スイス国務長官、コーエン駐アルジェリア・スイス大使、ロラン・スイス・アルジェリア商工会会長、ブシュアレブ産業・鉱業大臣が出席した。同会議中、ブシュアレブ大臣より、スイス企業の更なるアルジェリア市場への進出を期待する旨述べたのに対し、イネイヒェン・フライシュ国務長官より、スイスとしてもスイス企業のアルジェリア進出を促進したい意向である旨述べた上で、医薬品、輸送、サービス、農業分野における協力可能性について言及した。同会議終了後の記者会見において、ブシュアレブ大臣は、記者の質問に対し、現在プジョーとの組立工場設立に関する交渉は最終段階に達していると述べた上で、プジョーと共にフォルシア(プジョーの子会社の自動車部品パーツメーカー)も当地に進出すると述べた。

#### ● ベンハルファ財務大臣が国民議会の予算委員会に出席

22日、ベンハルファ財務大臣は、国民議会(下院)の予算委員会に出席し、2016年度予算法案について説明を行った。同大臣は、2015年—2019年の政府五カ年計画の継続を目指した上で同法案を策定した旨強調したものの、野党からは増税案に対して多くの反対意見が上げられた。同法案における主要項目は以下のとおり。

○輸入額：547億ドル

○輸出額(炭化水素部門)：264億ドル

○歳出：7兆9,841億アルジェリアン・ディナール(DA)

- 歳入：4兆7,474億3,000万DA
- 非炭化水素部門成長率：4,6%
- インフレ率：4%
- 歳入調整基金（FRR）：1兆7,970億DA
- ガソリン税増税（ガス車は免税）、電気・ガス料金値上げ

●ジェベル・ウアシュの迂回路開通式

29日、ウアリ公共事業大臣は、東西高速道路視察のためにコンスタンティーン県を訪問し、同県ジェベル・ウアシュの迂回路開通式に出席した。同開通式において、ウアリ大臣は、ドレアン―エル・タルフ間の工事はCOJAL（アルジェリア東西高速道路建設工事共同体）との係争によって約4年間も中断しているが、右工事を完工すべく、今後同工区の工事を国内企業に委託する旨発言した。

5. 我が国との関係

● 大使レター

14日付政府系「エル・ムジャヒド」紙及び23日付独立系「エクスプレッション」紙は、10月に当館より発出した、我が国の北アフリカ・サヘル地域における安全保障政策をテーマとした当館公館長レターを紹介する記事を掲載した。

<アルジェリア要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
11月3日	イギリス	ラマムラ外務・国際協力大臣	ハモンド英外務大臣と会談（リビア、マリ、シリア情勢）
11月6日	タンザニア	ラマムラ外務・国際協力大臣	大統領就任式に出席
11月9日	セネガル	ラマムラ外務・国際協力大臣	アフリカ治安・平和フォーラムに出席
11月9日	フランス	ヌリ水資源・環境大臣	COP21準備会合に出席
11月9日	アラブ首長国連邦	ガイド・サラ国防副大臣兼参謀総長	兵器見本市に出席
11月11日	マルタ	セラル首相	EU・アフリカサミットに出席

11月11日	サウジアラビア	ウルド・ヘリファ国民議会議長	第4回アラブ・アフリカサミットに出席
11月12日	アラブ首長国連邦	ラマムラ外務・国際協力大臣	第13回アルジェリア・アラブ首長国連邦合同委員会に出席
11月15日	オマーン	ラマムラ外務・国際協力大臣	第7回アルジェリア・オマーン合同委員会に出席
11月23日	イラン	セラル首相	第三回ガス輸出国フォーラム首脳会議に出席
11月25日	イギリス	メサヘル・マグレブ・AU・アラブ連盟大臣	第5回アルジェリア・英戦略パートナーシップ治安会合に出席
11月27日	チュニジア	メサヘル・マグレブ・AU・アラブ連盟大臣	エセブシ大統領、バクーシュ外務大臣と会談等
11月29日	フランス	セラル首相	COP21に出席

<外国要人のアルジェリア訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
11月2日	エジプト	シュクリ外務大臣	三ヶ国会議（リビア問題）に出席
11月2日	イタリア	ジェンティローニ外務大臣	三ヶ国会議（リビア問題）に出席
11月2日	ニジェール	バズム国務大臣	ラマムラ外務・国際協力大臣と会談等
11月4日	チリ	リベロス・マリン対外関係副大臣	ラマムラ外務・国際協力大臣と会談等
11月4日	ロシア	ナルイシキン下院議長	ブーテフリカ大統領、セラル首相、ウルド・ヘリファ国民議会議長と会談等

11月7日	コロンビア	オルギン対外関係大臣	ブーテフリカ大統領、セラル首相、ラマムラ外務・国際協力大臣と会談等
11月8日	ポーランド	トロチャーニ法務大臣	ブーテフリカ大統領、セラル首相と会談等
11月10日	スイス	ヘチェ國務院長、イネイヒェン・フライシュ國務長官	セラル首相、ブシュアレブ産業・鉱業大臣と会談等
11月10日	南アフリカ	ムテトゥワ文化大臣	ミフビ文化大臣と会談等
11月14日	国際赤十字	マウレル総裁	ルー法務・国璽大臣と会談等
11月16日	カメルーン	プルヴェ雇用・職業訓練大臣	エル・ガジ労働・雇用・社会保障大臣
11月18日	マルタ	ムスカ首相	ブーテフリカ大統領、セラル首相と会談等
11月18日	イタリア	デルリオ運輸・インフラ大臣	第13回公共事業見本市に出席
11月21日	フランス	ボルロー議員（国民運動連合）	ラマムラ外務・国際協力大臣、ヌリ水資源・環境大臣と会談
11月22日	西サハラ	アブデルアジズ大統領	ブーテフリカ大統領と対談等
11月23日	国連	ロス・西サハラ問題担当特使	ブーテフリカ大統領、ラマムラ外務・国際協力大臣と会談等
11月23日	リビア	エル・セラジ首相候補	メサヘル・マグレブ・AU・アラブ連盟大臣と会談等
11月24日	パレスチナ	エル・マリキ外務大臣	ブーテフリカ大統領、ラマムラ外務・国際協力大臣と会

			談等
11月26日	マリ	トゥーレ陸軍大将	ガイト・サラ国防副大臣兼参謀総長と会談等

(了)